

あろま

2012.1.5.

学校体育研究同志会東京支部 西多摩ブロック

12月例会 ハンドボールの研究をまとめるために③

12月18日(日)にあきる野・一の谷小で西多摩ブロック11月例会が開催されました。

これまで積み重ねてきた西多摩ブロックのハンドボールの研究・実践の成果をまとめ、本にするための取り組みの第3回目です。低学年のポケシュートゲーム、中・高学年のハンドボールについて、これまで提案されたことを実技をして確かめました。参加者は11人でした。

近況から

体育ではバスケットボールの学習をしている。体育ざら이었다った子も、チームで作戦を考え練習しゲームで確かめる中で、積極的に動けるようになってきた。明星のボール運動についての研究がとても役に立っている。(Aさん)

1年の担任をしています。クラスはいい状態です。今、娘の進学について考えています。明星も含め、いろいろ考えています。(Bさん)

教師道場に行っているが、「たのスポ」に載った記事で、もう一人いることがわかってうれしかった。教師道場も2年目になって、来ている人は一生懸命だが、私は一步下がって見ている。子どもたちにつけたい力も、同志会のものとはちがっている。まとめを書くことや、研究授業と発表の授業がある。(Cさん)

バスケットボールをやっているが、50代の女性の先生が、「子どもたちが楽しそうにやっているので、教えてください。」と言ってきた。ゴール前だけで攻められるように、攻めの形ができてから守るようにしている。子どもたちは自主的に学習に取り組んでいる。特別支援学級の授業にもかわり、よい経験をした。(Dさん)

大阪からまた東京にきました。いろいろ刺激を受けたいと思って、また例会に来ました。学校は全クラス4クラスで、4年生を担当しています。同じ職場の新任の先生を連れてきました。

(Eさん)

今年採用されました。わからないことも多いので、学年の先生などにきいています。柔道を経験しています。(Fさん)

9月9日にアキレス腱を切ったが、学校は休んでいない。自分としては早く治ったと感じている。算数少数数を担当しているが、楽しく学習させたいので、いろいろ道具をつくってやっている。算数も教える中身が増えて大変。(Gさん)

11月の終わりに祖母が亡くなった。メールで知らせを受けたが、個人面談を終わらせてから駆けつけた。2日間学校を休んで、クラスには他の先生に入ってもらったが、いろいろと課題も

明らかになった。体育はポケシュートゲームを始めた。案外うまくなっている。ボールを持たない人の動きをどう教えていこうかと考えている。(Hさん)

1年生では、シュートボールを教えている。自己中心的でなかなかパスをしない。3年生はベース走を行っている。ラップ付きストップウォッチを使って3人組で記録をとっている(走る人、タイムを読み上げる人、記録する人)。400m 800m 1000mと走る距離を伸ばしている。4年生はハンドボールで4:4のゲームまで進んでいる。上手な子は自分で抜いていくが、苦手な子は3人の攻めを必要とする。(Iさん)

冬大会で基調報告をすることになった。広い視点で書いてほしいという依頼だったが、後で具体的に～に引き寄せて書いてほしいという話もあり、18ページになった。冬大会には行けないので、他の人がスピーカーとして提案をする。基礎技術はないと言っている人がいるので、はたしてそうかなと書いてある。(Jさん)

実技を通してわかったこと

近況報告をした後、さっそく体育館に行って、これまでの例会で提案されたことについて実技を通して確かめました。

「投げる」「捕る」ことを身につけるために

ボール運動のゲームができるためには、「投げる」や「捕る」技術を身につけることが不可欠です。そのためにどのようなことをしていったらよいかについて提案があり、みんなでやって確かめました。

・両手でボールを持つところから始める。「ハ」の字になるように(人差し指と親指で三角をつくるように)持つ。頭上でボールを持つ。どの方向にも投げられるようにするため、また、ディフェンスに取られないようにするためにも。

・「投げる」は、頭上から両手でひじを高く上げて投げるところから始める。ひじを高く上げて投げるのが大切。

・「捕る」は、床にボールを落とすようにして弾ませ、跳ね返ってきたボールを手のひらを上向きにして捕るところから始める。

・「投げる」と「捕る」をつなげるために、体育館の壁に向かってボールを投げ、壁から跳ね返ってきたボールをワンバウンドで捕る。

・2人でキャッチボールをするときには、2人の間にボールを弾ませてワンバウンドのボールを捕る。弾ませる場所をわからせるための目印に、フラフープやケンステップを置く工夫も考えられる。

・こんな練習を積み重ね(毎時間少しずつ「投げる」「捕る」の練習時間をとる。または「基本の運動」として行う)ながら、徐々に片手で投げたり(やはりひじを高く上げて投げるのが大切)ノーバウンドのボールを受けたりできるようにする。

「ポケシュートゲーム」でこんなプレーが出るように

初めて参加された方もいたこともあり、「ポケシュートゲーム」のゲームのしかたから実技を行いました。そして、「ポケシュートゲーム」の実践をもとに、低学年ではどのようなプレーがわか

ってできるようにしたいかを考え合いました。

低学年では自分で持って走りシュートしたいという意識が先行し、仲間にパスをするという考えが出てこないのが実情のようです。またディフェンスも、ボールを持っているこの周りに集まってきます。ボールを持っている子がディフェンスに囲まれ、どうしてもなくなったときに投げたボールが味方に渡り、その子はノーマークだったのでシュートができたという場面もあったようです。その場面で教師はそのプレーを取り上げ、「こんなふうには味方にパスをするとうまくいくんだね。」と、そのプレーの意味づけをしたということです。

低学年では、このようにディフェンスに囲まれたときに味方にパスを出すプレーができればよいのではないかという話でした。

パスが意図的にできるように

味方へのパスをもう少し意図的にできるようにするために、「タッチボール」のゲームをやっておくことも大切なようです。タッチボールをいうのは、2枚のマットをゴールにして、そこにボールを持ち込み、マットにボールをタッチさせれば得点になるゲームです。ボールは持って運んでよいのですが、ディフェンスにタッチされるとその場に立ち止まり、ボールを放さなければなりません。このときパスを出せる味方をさがしてパスをするのです。否応なくパスをしなくてはならないのです。また、ボールを持っている間はボールを取られたりすることがないので、ゆっくりパスできる味方をさがすこともできるのです。

ルールによる“縛り”は...

昨年の1年生での実践では、学年3クラスでいっしょに取り組みました。学習のまとめとして3クラス対抗のポケジュートゲーム大会をしました。ワンマンプレーをしてしまうクラスがあり、そのクラスの先生の願いで「必ずパスをしてからでなければシュートしてはいけない」というルールをつくったのだそうです。しかし実際のゲームでは、ゴール前のプレーの中でのパスではなく、遠くはなれた自陣でプレーには関係しないようなパスをしてから、一人で持って行ってシュートするというプレーが多かったということでした。

ルールはそのゲームを通してどんなことを学ばせたいかということに大きく関係するものであり、ゴール前でプレーを教えようとするなら、むしろ「誰もがシュートする」ことに重きをおいた「全員シュートしたらボーナス得点」のようなルールの方がよいのではないかという話になりました。うまい子ならば一人で持って行ってシュートもできるでしょうが、そうでない子のシュートのためには味方の力がどうしても必要です。そこに自ずとパス シュートというプレーが出てくるはずで

ハンドボールの2人の攻め

シュートできる空間（重要空間）と補助空間（シュートにつなげるプレーをするための空間）を認識できることが大切です。重要空間は制限区域近くのシュートが入りやすい場所です。補助空間は重要空間の外側の場所です。複数の重要空間と複数の補助空間を認識した上で、ひとつの場所を「おとり」にしてもう一方の場所の「ノーマーク」をつくりだすのが「2人の攻め」です。

プレーをパターンとしての動きにしないために、重要空間や補助空間をさまざまな場所にしたり、「おとり」と「ノーマーク」のつくりかたをさまざまに考え、動くことが大切です。

シュートできなかったときに、新たな重要空間や補助空間を認識し、動けるようになることも大切です。「作戦人形」を使って空間や動きを考えて確かめたり、実際の動きの練習を積み重ねることが、プレーをわがものとする上で欠かせません。

ハンドボールの3人の攻め

3人の攻めは、3人でなければできない攻め方です。「パスを出す」「おとりになる」「ノーマークになってパスを受けシュートする」という役割をそれぞれがもっています。そして重要なのは「空間を空けること」と「時間差で動くこと」です。また「クロスに動く」ということもディフェンス同士をぶつけるようにしてかわすために有効です。

そんなことを実際に動いてプレーしながら確かめました。

参加された方の感想から

いよいよ今年も、1回だけではあるがボール投げをやった。まずは一人でボールに慣れ、二人でパス・キャッチ、かべ当て、ゴールに向かってシュートを行った。1年生の時とは違い、ボールをこわがるのが少なくなり、スムーズに授業に入れた気がする。あとは以下にノーマークの子にパスを出し、シュートへつなげていくのが、今年(2年生)の課題だと思う。それができるように、練習過程、ゲームのルールをこれから考えていきたい。

(Hさん)

一緒に研究できる仲間がいることに感謝です。実技をするとわかりやすいですね。「落とす」「ドリブル」「パス」というパスの系統(?)も勉強になりました。個人の壁当て 二人のバウンドパスという流れ、その場ドリブル 歩く ターンという流れもおもしろいですね。一番困っている子どもにどう教えるかを問う中で、新しい発想が湧いてくるのですね。

(Iさん)

今まで頭の中で聞いていたことが、実技をすることで、よりはっきりわかりました。空間の使い方、空間の生み出し方を、子どもたちが楽しめる授業でできたらと思います。低学年から学校全体で意識できるように、他の先生にも伝えていきます。

(Kさん)

久しぶりに参加させてもらい、とても実りのある時間となりました。特に2対2、3対3の練習を、どう実戦に近づいた内容にするかは、改めてむずかしいなと思いました。また、私は1・2年生の担任をしたことがないので、低学年でどこまでできるか、どこまで学習させるか、とても勉強になりました。

(Eさん)

今日、初めて参加させていただきました。もらった資料を読んで、正直まったくわかりませんでした。実技においても、他の先生方がおっしゃっている意味がよくわからない場面がたくさんありました。しかし、「その練習で何ができるようにさせたいのか、何を伝えたいのか」ということを、しっかりと考えなければならないと思いました（当たり前のことかもしれませんが）。また勉強させていただきたいです。

（Fさん）

空間をどう読むか！ そのむずかしさとおもしろさを感じました。その場で、どっちを選ぶか！ 相手の位置とゴール、次の自分の動き。ゲームの中では、瞬時にいくつもの情報を一度に判断している、その連続ということに驚きました。しかし、そのことを、どう子どもたちに、頭で、体でわからせていくのか。これからの授業づくりが楽しみになってきました。もう一つは、動きをわからせるための教具、アイデアがよかったです。とても勉強になりました。

（Gさん）

実技とコマの動きを合わせてやると、動きのもっている意味がよくわかるのがわかった。教材づくりとして、「ポケシュー」と「ハンドラグビー」「ラグハンド」の方法論の意味もよくわかった気がする。つまり、追体験型の中からコンビネーションの技術を教えるのが、コンビネーションの技術のもっている法則性の認識を最重要課題とするのかで、教材づくりの方法が異なってくる。低学年教材づくりは、まだまだ面白があると感じた。

（Jさん）

・ポケシューゲームで、どのようなプレーがわかり、できるようにさせたいのかを整理することができました。また、ハンドボールの2人の攻め、3人の攻めについても、実技でやってみて、よりよくわかりました。明星でやってきた研究はすばらしい。

（Aさん）

西多摩ブロック 1月例会のご案内!

日時: 1月14日(土) 午後1時～ 場所: あきる野市立一の谷小学校

問い合わせ・連絡先 TEL: 042-559-4501

アクセス等は以下の一の谷小学校のホームページをご覧ください。

<http://www.akiruno.ed.jp/e-ichinotani>

* 球技のおもしろさと授業づくりをもとめて *

ポケシューゲームの授業づくり

ベースボールの授業づくり

子どもたちは、どこで球技のおもしろさを感じ取るのか。球技の魅力はどこに? 球技で何を学ぶ? 子どもの発達段階と球技との出会い。

小・低学年で育てたい力。中学校、ベースボールの魅力は何か。改めて球技と授業を見つめ直してみませんか!!